

氏名(本籍)	清宮孝文(神奈川県)
学位の種類	博士(体育科学)
学位記番号	甲第91号
学位授与年月日	令和3年3月15日
学位授与の要件	文部科学省令学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	スポーツボランティア活動における大学生ボランティアのマネジメントに関する研究
審査員	主査 日本体育大学 教授 依田 充 代 副査 日本体育大学 教授 石 井 隆 憲 副査 日本体育大学 教授 鈴 川 一 宏

《論文審査結果の要旨》

本論文は上記題目の主論文ならびに関連論文2編をもって提出され、審査に付された。

本研究の目的は、大学生のスポーツボランティアに対するイメージの構造を把握し、スポーツボランティア活動におけるマネジメント方法を提案することであった。具体的には、第一に、大学生が抱くスポーツボランティアに対するイメージを明らかにし、参加と結びつきが強いイメージを表出させることを試みる。そこから、大学生の中でスポーツボランティアに対してどのようなイメージを有している者がスポーツボランティア活動に参加しやすいのか検証を行う。第二に、属性によるスポーツボランティアに対するイメージの差異を抽出することを試みる。第一の結果と組み合わせ、スポーツボランティア活動に「意欲的な学生」と「意欲的でない学生」の特徴を明らかにする。最後に、スポーツボランティア活動への参加経験がある学生に着目し、スポーツボランティアに対する大学生の全体的なイメージと、スポーツボランティア活動を実際に行ったことがある大学生のスポーツボランティアに対するイメージの差異について検証を行った。

序章ではスポーツボランティア活動への参加については、他律的な参加が常態化している可能性があること、また大学入学以降のボランティア活動が課題とされていた。さらに、先行研究の検討では、スポーツボランティアに関する研究では参加者を対象とした研究が中心とされていること、また、その参加者においても強制的や義務的な理由から参加した者の存在が報告されていることを指摘した。

本論では第一章で体育系大学生のスポーツボランティアに対するイメージからスポーツボランティアに対するイメージの構造化とスポーツボランティアに対するイメージと参加意欲の関連性を明らかにした。次に第二章では全国の大学生のスポーツボランティアに対するイメージからスポーツボランティアに対するイメージの構造化とスポーツボランティアに対するイメージと参加意欲の関連性を明らかにした。さらに第三章でスポーツボランティアに対するイメージの属性比較からスポーツボランティア活動への参加意欲に影響を及ぼす要因の属性比較とスポーツボランティアに対するイメージの類型化と参加意欲との関連性(体育系大学生)を明らかにした。以上の研究から、第四章でスポーツボランティア活動経験者のイメージ構造として、参加経験がある体育系大学生のイメージ構造と参加経験がある大学生の

イメージ構造の検討を行い、総合討論において大学生におけるスポーツボランティア活動へのマネジメントの提案を行った。

以上の実証的研究をまとめると、1つ目に体育系大学生の方が他の学生よりもスポーツボランティア活動に自発性かつ公益性を持って臨める可能性が高いこと、2つ目に大学生のスポーツボランティア活動への利他的や利己的なイメージはスポーツボランティア活動の参加への意欲を向上させること、3つ目に他律的なイメージに関してはスポーツボランティア活動への参加意欲を低下させ、今後のスポーツボランティア活動への参加に影響を及ぼす可能性があることが明らかになった。

以上の結果から大学生におけるスポーツボランティア活動へのマネジメント方法について次のような提案を行った。第1に、スポーツボランティア活動の運営側が大学生に対して募集を行う際には体育系大学生を中心に募集を行い、体育系大学生の学生を対象にする際にはスポーツ技能を活用したい者を対象とする。第2に、スポーツボランティア活動の運営側や大学などの組織は募集の際、活動内容を詳細に提示すること、スポーツ技能を活用できる場を積極的に作ることが求められる。第3に、スポーツボランティア活動の運営側や大学などの組織は、女性に対する積極的な募集を行うことが求められる。第4に、大学や各種団体などを含む組織では、大学生に対して更なるボランティア教育が重要であり、反対に、運営側にはアルバイトと同等に給与を出す活動をスポーツボランティア活動と掲げることを控える必要がある。第5に、運営側から大学などの組織に対して人数を指定してスポーツボランティアを募集すること、そして、大学などの組織がクラブやサークルなどの関連集団に対してスポーツボランティアを義務的とも捉えられる方法で募集することを控える必要があることを提案した。

今後の課題としては、本研究から表出した体育系大学生の結果を普遍化するためにも、他の体育・スポーツ系の学部を有する大学も調査対象に入れて研究すること、スポーツボランティアの活動内容を細分化し、説明変数の多様化を図っていくこと、スポーツボランティア活動に影響を与える属性の検討をさらに進めること、定性調査などを用いてスポーツボランティアに対するイメージが形成された過程やスポーツボランティア活動への参加を阻害する要因などについても検証すること、国際比較などを行い、日本人のスポーツボランティア活動に対する多様性についても検証していくことの5点が示された。

最終審査においては、申請者による論文についての説明に質疑応答がなされた。申請者は論文の内容ならびに方法に対して審査員からの質問に的確に答えている。本論文に対して審査員から一部の論文構成に関する修正の要請があったが、それは形式上の指摘であり、論文の価値を損なうものではない。本論文で示されたデータは、大学生のスポーツボランティア支援を分析する上で重要なものであり、その分析内容はこれまでの研究に類をみないという特徴も有する。また、本論文はスポーツボランティア活動のマネジメント方法を明らかにした点に学術的意義が認められる。

以上、審査の結果、申請者は博士(体育科学)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

《最終試験結果》

合格 ・ 不合格

令和3年1月28日